

いわき湯本病院

症例概要 患者:70代 女性

病名:敗血症後、化膿性椎間板炎、化膿性膝関節炎および肩関節炎、肝機能不全、腎機能不全、心房細動、凝固異常

入院期間:令和2年9月上旬～令和2年11月上旬

経過:本年2月下旬発熱(39度)、嘔吐、下痢を主訴に市内急性期病院受診。重度の感染症、敗血症、腎、肝臓の機能不全顕著で、多臓器不全の状態。発症7ヶ月目リハ継続目的で紹介され当院入院。

内容

自宅にてご家族と生活しADLは自立していたが、2月下旬発熱(39度)、嘔吐、下痢を主訴に市内急性期救急病院を受診。検査の結果、炎症反応著明で、さらに腎機能不全が見られ、血小板数も異常に減少し血液凝固異常も顕著であった。血液培養で大腸菌が検出され、重度の感染症で敗血症・DICと診断された。発症7ヶ月目リハ継続目的で紹介され入院。

当院入院前は長期臥床に伴う廃用のため、筋力低下は著しく立位も不能で、入院時の端座位は可能であるが、全身的な筋力低下は著明で下肢の支持性はほとんどなく、起立時全介助を要する状態にあった。その後約20日間は同様の状況で推移し車椅子への移乗時にも腰が上がらず、重度介助が必要でFIMは58点であった。ご本人はリハビリに対して消極的で、直ぐにあきらめてしまう様子であったが、担当理学療法士が、甘えることなく、時に厳しく、リハビリに対するモチベーションを高める取り組みを行なった為、転院後1ヶ月を過ぎ35病日頃から運動能力が急激に改善し始め、サークル歩行器での歩行練習を開始。10m程度の歩行が介助で可能となった。51日目頃には車椅子移乗動作も見守りで可能(FIM84点)になり、トイレ動作もほぼ可能になった。転院58日目退院し在宅復帰できた。

感染源不明の重度感染症で、敗血症、多臓器不全の重態時期を長期間経過しながら、医療チームの加療が奏功し、最終的に運動能力回復を果たし無事在宅療養に復帰し得た症例である。